

北海道ぎょれん広報

なみまるくん

4

2023

No.414



「うみ・なかまコミュニケーション」

ぎょれん中期的事業推進方向と
令和5年度事業計画―前編―
道漁青連が視察研修を行いました

特集

初がつおを食し春を健やかに

春の到来です。今までの3年間は違った喜びしさを感じますよね。洋服が軽くなるのと同じ時に心の鎧も外れたよう…。少しづつイベントや外食をする機会も増えてきました。私はまだマスクを取る勇気がなく、装備して参加しています。先日、イベントで向かい側に座っていたご婦人が食事の際、「マスクを外しますので失礼いたします」と相手を思いやる言葉を発していました。マスク一つにしても考え方は人それぞれ。配慮は必要ですね。

春が旬の食品が店頭に並び出すと心が弾みます。最近は食事指導をしている方々の食卓に初がつおが登場することが増えてきました。かつおを食べていると私は褒めることが多いです。なぜならかつおは栄養価がとても高いから。

アミノ酸バランスが整った良質なたんぱく質はもちろん、DHAやEPAといった体に有用な働きをする「オメガ3系脂肪

酸」が豊富。さらに回遊魚の特徴でもある「鉄」「銅」「亜鉛」といったミネラルや、「ビタミンB12」なども多く含まれています。鉄は約60〜70%が全身に酸素を運ぶ赤血球のヘモグロビンに存在し、エネルギーづくりに欠かせない栄養素。また皮膚や骨などの代謝やコラーゲンの合成も助けてくれます。

実は鉄だけを補給していても銅が不足すると鉄欠乏性貧血になります。これは鉄が赤血球のヘモグロビンに組み込まれやすくするのが銅の働きだからです。さらに銅は老化や病気の原因になる活性酸素の除去にも作用。私が大事にしている栄養素の一つでもあります。

亜鉛は免疫力を高めたり、細胞の再生に関わります。不足すると皮膚や髪の毛のトラブルの原因になってしまいます。「ビタミンB12」は正常な赤血球づくりに必須。不足すると異常な赤血球による「巨赤芽球性貧血」の原因になります。さらに体内時計を

整えるので睡眠にも関与するビタミンです。

食事指導をしていると貧血症状を訴える人が増えているように感じます。以前は圧倒的に女性が多かったのですが、食事の乱れからか男性にも増えてきているのが最近の傾向です。

かつおを食べてエネルギーを満タンにし、免疫力を上げ、しっかり寝て、健康を保ちながら新しい季節を楽しみましょう！



うえさか
まちこ
お食事のカウンセリングサロン
OAG代表/管理栄養士/料理家
/フードリスト
テレビ出演、新聞・雑誌などでコ
ラム連載や栄養監修、レシピ、ス
タイリングの提供などを行う。
講演会や食事指導、料理講師、短
大・専門学校非常勤講師など
活動は多岐。ぎよれんと共に昆
布や鮭の情報を広く発信。

01 マチコさんのおさかなコラム
「初がつおを食し春を健やかに」

02 特集1
ぎよれん中期的事業推進方向と令和5年度事業計画 一前編一

10 特集2
道漁青連が視察研修を行いました

12 頭すっきり!! ブレイクタイム

13 みなさんのお便りでつくるページ
なみまる おたより箱



大切に育てられた成貝の出荷や稚貝の耳吊り作業。春が近づき、噴火湾のほたて生産者は一年で一番忙しい時期を迎えています

表紙の写真
長万部漁協 長万部港です

特集 SPECIAL

ぎょれん中期的事業推進方向と 令和5年度事業計画 ー前編ー



ぎょれん 菊池副会長

令和5年度が始まりました。今月と来月の2号にわたり、ぎょれんの「中期的事業計画」と「令和5年度事業計画」をご紹介します。

今月は中期的事業計画と、令和5年度事業計画のうち、漁政対策、指導・教育事業、漁業環境保全対策事業、販売事業（全体方針及び秋鮭）を、来月は「令和5年度事業計画ー後編ー」として、販売事業のうち、ほたて・昆布・鮮魚に関する事業と、末端加工製品、食の安全・安心対策、宣伝販促・食育事業、購買事業、経営体制の計画をご紹介します。

中期的事業推進方向の 基本的な考え方

本会は、「夢と活力ある北海道漁業の再興」を基本方針とした中期的事業推進方向を策定し、令和2年度から3か年計画で、会員と一丸となって各種事業を推進してきました。

この間、北海道漁業は世界を混乱の渦に巻き込んだ新型コロナウイルス感染症や長引くウクライナ紛争による物価高騰の影響など、急激に変化する社会への対応が求められた3年間となりました。

取り巻く環境が激変するなか、北海道の漁業生産量は、いわし・ほたての安定的な生産や秋鮭の回復などもあり、110万トンの水揚げで推移したものの、暴幹魚種である昆布・さんま・いかなどは引き続き低調な生産・水揚げとなりました。

一方で、地域・魚種間の格差がより一層顕著になったほか、過去に類例のない大規模な赤潮による甚大な漁業被害の発生、加えて少子高齢化・地域からの人口流出による労働力不足など、漁家・漁業経営のみならず、水産加工業をはじめとした業界全体にとっても生産力の安定維持が大きな課題となっています。

消費流通面においては、国内人口の減少が続くなか、新型コロナウイルス感染症の影響により、社会・経済活動の状況は劇的に変化しており、消費者のライフスタイルや行動意

化を図ります。

営漁コストの削減対策として、漁業省力化機器の開発やAI等新技術の水産分野への応用検討などを関係団体・企業と連携しながら推進します。

以上、次期3か年の各種事業推進にあたっては、指導・経済事業連合会として、益々高まる浜からの負託にこたえ、「浜から信頼される」系統組織であり続けるために、新技術の活用も検討したなかで生産性の向上を図るとともに、浜との連携をさらに強化し、今後も想定される厳しい環境に対応していくための盤石な経営体制の構築を目指し、各事業課題に挑戦していくこととします。

への取組を継続します。

河川・海洋環境保全対策については、本道の美しい海と海洋生物を守り続けるための取組をさらに強化します。

販売事業については、国内流通対策を基軸として、漁協・関連会社・協力会社との組織的な連携のもと、安全・安心対策に万全を期しつつ、消費者の各種ニーズに対応した高次・高付加価値加工を行うとともに、ポストコロナを見据えたなかで、多様化するマーケットに対応した商品開発機能及び販売体制を構築します。

また、販売戦略と連動して、消費者志向や社会情勢を見極めた効果的な販促活動を行うとともに、数十年先の食の未来を見据えた食育などの魚食普及活動をCSR活動とも連携しながら展開します。

輸出においては、既存販売先との取組強化を図るとともに、品目別戦略に基づく新たな販売ルートの開拓に取り組みます。

鮮魚流通対策については、浜と連携した加工・冷凍・流通体制の拡充を図り、魚価と安定流通に向けた取組を推進します。

購買事業については、系統ブランド資材の普及による漁業資材コストの低減化、系統燃油事業のさらなる強化を行うとともに、引き続き廃棄漁業資材の再資源化やエコ包装資材の開発および廃プラスチックのリサイクル推進など、環境負荷の低減に関する取組の強



○流通

1. 国内販売対策

- (1) 会員並びに重点取引先との関係深化による安定した集荷体制の構築
- (2) 多様化するマーケットに対応した商品開発機能及び販売体制の強化
- (3) 販売戦略と連動した効果的な販促活動の実施

2. 輸出対策

- (1) 会員、関連会社一体となった輸出機能の強化
- (2) 既存販売先との組織的連携の強化
- (3) 品目別戦略に基づく新たな販売ルートの開拓
- (4) 輸出リスク(為替・与信管理)管理体制の強化
- (5) 円滑な輸出手続きの実現に向けた行政との連携継続

購買部門

○漁網網

1. 系統ブランド資材の普及による漁業資材コストの低減化

- (1) 浜の営漁コスト削減のための系統ブランド資材の品目の拡充強化
- (2) 系統ブランド資材評価推進委員会、各種部会、メーカー視察等における普及活動並びに販売力強化

○石油製品

1. 系統燃油事業のさらなる強化

- (1) 不安定な燃油動向を踏まえた安定供給体制の維持と適正価格での供給に向けた取組強化
- (2) 共有燃油施設再編整備計画に基づいた着実な整備推進と検証実施

○一般資材

1. 環境負荷の低減に対する取組

- (1) プラスチック使用数量削減に向けたエコ包装資材の開発と普及推進
- (2) 廃棄漁業資材(廃網、ロープ、養殖籠)のリサイクル化の推進

○その他機器

1. 漁業省力化機器の開発による営漁コストの削減

- (1) 漁協並びに関連メーカー等との連携による省力化機器開発や補助事業等を活用した普及推進
- (2) AI等新技術を利用した水産分野への応用検討

経営重点方針

○経営基盤強化

1. 経営体制の強化

- (1) 目まぐるしく変化する経営環境に適応した収益構造の確立
- (2) 本会グループ体となった効率的な経営の推進
- (3) 情報技術を活用した業・事務合理化のさらなる推進
- (4) 本会・関連会社保有資産の検証及び選択と集中に基づいた戦略的な投資の検討
- (5) 本道漁業生産回復に向けた増養殖・スマート漁業等に関する先行事例の情報収集・発信強化

2. ガバナンスに基づいた経営の推進

- (1) コンプライアンス(法令遵守)経営のさらなる強化
- (2) 経営リスクマネジメントの継続強化

○人材育成

1. 人材の育成・活用

- (1) 人材育成計画に基づいた職員教育による人材力強化の継続
- (2) 定年延長等、労働力人口の変化を見据えた人事制度の構築
- (3) 本会グループ体での競争力強化に向けた効果的な人員配置
- (4) 共助の精神醸成に向けた取組強化

○CSR活動の取組強化(SDGsとの連携)

1. 環境に配慮した各種施策の推進と実践

- (1) 環境基本理念・環境方針に配慮した経営の推進
- (2) 各種環境保全活動(植樹、海浜清掃、省エネルギー対策、5R、脱・抑プラスチック活動等)の推進
- (3) カーボンニュートラル実現に向けた取組推進

2. 社会との共生に向けた取組の推進

- (1) 地域社会への貢献に向けた取組推進

中期的事業推進方向(令和5年度～令和7年度)

基本方針

『持続可能な未来を創る北海道漁業の実現』

○取り巻く環境の変化に対応した生産基盤の強化

○漁協経営の安定化に向けた諸施策の強化

○ポストコロナ社会における新たな方向性の検討

部門別重点方針

指導部門

○漁政

1. 持続可能な本道漁業に向けた漁業生産基盤強化

- (1) “禍”(コロナ、風評被害、自然災害等)からの復興支援対策への取組
- (2) 漁業経営基盤強化のための所得向上、コスト削減対策並びに計画的な設備投資等の取組拡充
- (3) 漁村地域活性化に向けた漁業振興の取組推進
- (4) 道産水産物の流通対策強化による安定した漁業生産実現に向けた取組
- (5) 漁場の安全確保に向けた取組の強化

2. 漁業者が将来にわたり、漁業を継続するための本道漁業の実態に即した実効ある資源管理・増大対策の推進

- (1) 本道漁業者が主体的に取り組む資源管理体制の推進
- (2) 資源と漁場に見合った操業体制構築に向けた取組
- (3) 本道における増養殖事業の推進に向けた取組

○指導教育

1. 漁協経営の適正化及び浜の人材育成への取組の継続強化

- (1) 漁協の経営適正化に向けた取組強化
- (2) 漁協役職員の人材育成、確保に向けた支援
- (3) 協同組合意識醸成に向けた取組強化

○環境

1. 漁業環境保全対策の強化

- (1) 河川・海洋環境保全対策の強化
- (2) 有害生物対策の継続
- (3) 森林環境保全対策の拡充強化

販売部門

○市場

1. 安定流通・魚価維持のための産地市場対策の拡充

- (1) 鮮魚流通対策の拡充
- (2) 基幹品目の魚種別流通対策の強化
- (3) 市場事業の全利用共販の推進
- (4) 道と連携した市場衛生管理体制の継続・強化

○加工

1. 漁協・協力・関連会社との組織的連携による加工機能強化

- (1) 漁協工場・協力会社・関連会社との組織的連携による生産体制の整備
- (2) 労働力不足に対応した稼働体制の確保と諸対策の拡充
- (3) 消費者ニーズに対応した高次加工・高付加価値加工体制の強化
- (4) 品質・生産・商品管理体制能力のさらなる強化
- (5) 突発的な水揚げに対応できる鮮魚加工流通体制の維持
- (6) 生産安定化に向けた取組推進

令和5年度事業計画(案)

指導事業について

1. 漁政対策

国が新型コロナウイルス感染症と社会活動の共生に大きく舵を切ったなかで、本道水産業においては、水産物価格が高値で推移したほか、近年不漁が続いていた秋鮭の水揚げが大幅に回復し、7年ぶりに3,000億円を超える生産金額となりました。

しかしながら、海洋環境の変化に伴う水産資源の変動や漁業者の減少と高齢化等といった構造的課題とともに海獣による漁業被害、自然災害等の増加や貿易問題などの課題が山積するなかであって、福島第一原発ALPS処理水が今春から夏頃にかけていよいよ海洋放出される段階となり、本道水産物に対する新たな風評被害の発生が強く懸念されている状況にあります。

また、一昨年に本道太平洋沿岸において発生した赤潮による漁業被害に対する支援の継続が求められているほか、国の進める「新たな資源管理」に伴い漁業現場が混乱することのないよう対応を図ることも併せて必要となっています。

本年度の漁政対策の推進にあたっては、本道漁業を取り巻くこれら課題が解決され、持続的な漁業が実現するよう、全力をあげて取り組んでいくものとします。

(6) 水産物貿易自由化に対する対応

①貿易自由化交渉の進展に対する本道漁業への影響回避に向けた取組



武部農林水産副大臣(当時)への要請

2. 指導・教育事業

漁協系統を取り巻く環境が劇的に変化するなか、漁協経営を健全に進める上で、法令順守、内部統制など管理体制強化への取組が強く求められています。

こうしたなか、水産政策、働き方改革、加えて各種法改正等への適正な対応に向け漁協人材育成支援、教育研修活動の充実に引き続き取り組めます。

また、個人優先への社会的風潮が高まる社会にあって、協同組合組織活動の重要性を周知する取組を強化します。

(1) 漁協の経営適正化に向けた取組の強化

①経営安定化を進めるため、水協法等関連

(1) 福島第一原発ALPS処理水の海洋放出による影響の回避に向けた取組

- ①本道漁業者が同処理水の海洋放出に反対であることの社会への情報発信
- ②本道の漁業実態に即した国、東電による各種対策事業の活用推進

(2) 漁業・漁協経営の安定化に向けた取組の強化

- ①先行きが不透明な新型コロナウイルス感染症による水産業への影響緩和に向けた対策の継続
- ②担い手・後継者対策の取組強化と外国人材活用に向けた取組
- ③漁業者の設備投資(漁船・漁具・機器等)に係る支援策の強化に向けた取組
- ④漁業収入安定対策における減収著しい漁業に対応した制度運用や施策強化に向けた取組
- ⑤漁業経営セーフティネット構築事業等、漁業経営コスト削減に向けた取組
- ⑥国の施策推進に伴う水揚げ減少により減収となった漁業・漁協経営に対する支援実現に向けた取組
- ⑦漁協の収支改善と設備更新・保全等の支援に係る予算確保に向けた取組

(3) 本道漁業の実態に即した水産資源の回復・増大に向けた取組の推進

- ①栽培漁業・増養殖事業に係る実効性ある施策実現と予算確保に向けた取組
- ②資源減少要因の究明に向けた調査研究体

(2) 漁協役職員の人材育成、確保に向けた支援

- ①組合実務に直結する研修を実施することにも、動画やWebを活用した研修ツールの作成の推進
- ②新規人材確保に向け全国漁協組合学校に対する業務支援と、本会奨学金制度の円滑な運用、新採用に関する情報提供を継続

(3) 協同組合意識醸成に向けた側面支援

- ①組合員が集まる場で活用できる研修ツールの作成、整備の推進
- ②青年部、女性部等の全道会議の場を活用し組合員組織での研修会開催を要望することに合わせ、本会職員が出講対応し役員研修や諸会議での協同組合論教育を実施

制の拡充強化に向けた取組

- ③国が推進する「新たな資源管理」における本道漁業の実態に即した資源管理措置(ほっけ・真だら・ぶり等)の実現に向けた取組
- ④クロマグロの漁獲枠確保と漁業者への経営支援の拡充に向けた取組
- ⑤漁獲が減少している資源(秋鮭、さんま、するめいか、昆布等)に対する資源回復に向けた取組
- ⑥資源の維持・回復を阻害する密漁防止と遊漁対策の拡充強化に向けた取組
- ⑦水産流通適正化法に基づくUUU漁業(ナマコ・アワビ等)撲滅に向けた取組

(4) 漁村振興及び漁場環境保全に係る取組の実施

- ①有害生物による漁業被害の防止と漁業経営への影響軽減に向けた取組
- ②赤潮被害に係る原因究明と漁場の早期回復・被害対策の拡充に向けた取組
- ③漁村振興に寄与する水産多面的機能発揮対策等の予算確保に向けた取組

(5) 災害被害対策の拡充強化に向けた取組

- ①流水等の自然災害被害からの早期復旧体制の構築に向けた取組
- ②海岸漂着物処理推進法等の災害復旧に活用できる各種支援事業の拡充強化



漁協新任役員研修

3. 漁業環境保全対策

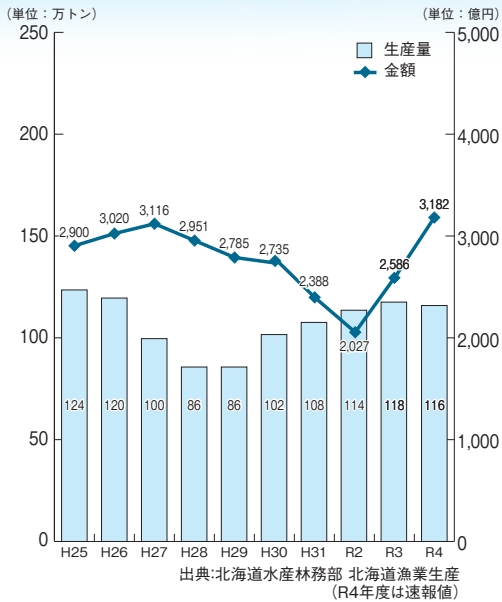
河川環境では、近年の豪雨災害を踏まえ、大規模な河川改修が今後見込まれるほか、新幹線延伸工事に伴う対策土の受入地問題等が課題として挙げられます。また、油流出事故や家畜排せつ物の流出事故が相次ぐなど、従来の工事濁水のみならず、河川環境やふ化放流事業へのリスクが増大している現状があります。

海洋環境では、トド等有害生物対策や、海洋プラスチックごみ問題、流水の発生抑止と撤去対策、森林環境の保全等の課題に加え、政府のエネルギー政策見直しにより洋上風力発電開発が一段と加速しており、この対応も求められています。このような状況を踏まえて、諸対策を推進します。

(1) 河川・海洋環境保全対策

- ①大規模河川改修(国による治水対策)に

本道漁業生産量・金額の推移



- (3) 流通**
- ① 国内販売対策
ア・ポストコロナを見据えた業態別販売戦略及び商品開発の推進
イ・重要取引先との取組強化による安定流通及び新規販路の拡充
ウ・社会情勢に対応した柔軟な宣伝・販促活動の強化
エ・MSC、MEL等を活用したブランド力強化
 - ② 輸出対策
ア・原料輸出による市場確保の取組継続
イ・海外ニーズに対応した製品輸出の販路確立
 - ③ 変化する消費者ニーズに対応した加工体制の拡充

- (6) 流木対策**
- ① 流木捕捉工の設置箇所拡大に向けた取組推進
 - (5) 有害生物対策**
 - ① トド・ザラボヤ・クラゲ類による漁業被害軽減対策の推進
 - ② ザラボヤなど処理対策費の増額や柔軟的運用の要請

- (4) 油流出事故対策**
- ① 油濁対策機構と連携した油防除指導者養成講習会の開催
 - ② 油濁事故発生時の専門家派遣など現地対応支援の強化

- (3) 農業関連対策**
- ① 道農政部や農業団体と連携した家畜排せつ物流出問題の取組強化
 - ② 農地崩落、農薬対策、河川敷地での液肥散布対策

- (2) 大規模インフラ工事対策**
- ① 新幹線トンネル工事に係る対策土への対応強化
 - ② 橋梁の架替え、大規模修繕、高規格道路建設等のインフラ対策の推進

- 対する漁場環境保全を強化
- ② 赤潮対策として河川水調査とプランクトンセンサーによる即応体制整備
- ③ 洋上風力発電開発や海底送電線網整備に係る対応強化

販売事業について

昨年の全道水揚げは、昆布やさんま、いかといった基幹魚種の水揚げについては依然と



「全道なみまるクリーンアップ作戦」
令和4年度は宗谷地区、桧山地区、渡島地区、日高地区、根室地区、胆振地区で実施しました

- ② 国や道による流木撤去事業の拡充要請
- (7) 海洋プラスチックごみ対策**
 - ① 「全道なみまるクリーンアップ作戦」を新たに5地区で実施
 - ② マイクロプラスチックの魚体への影響等知見の集積
- (8) 森林環境保全**
 - ① 森林の機能と育樹を意識した「お魚殖やす植樹運動」の展開
 - ② 河畔林・溪畔林の保全に向けた行政機関との協議

1. 秋鮭

秋鮭の水揚げは地域間の格差はあるものの、昨年は約8万トンの水揚げとなり、親製品、魚卵製品ともに生産量が大幅に増え、今後の消流状況次第では、在庫の滞留と相場下落が懸念される等予断を許さない状況となっています。

また、昨年からの課題となっている全道的な秋鮭の背面処理（加工能力・運送等）機能の低下により、地区によっては集中的な水揚げに前浜での対応が困難となっており、さらなる広域的な原魚処理体制の構築が必要不可欠となっています。

このことから、秋鮭の安定的な消流に向け、秋鮭流通対策協議会と連携した国内外における各種対策を計画的に実施し、処理能力のアップと売場の再構築に向けた取組を推進していきます。

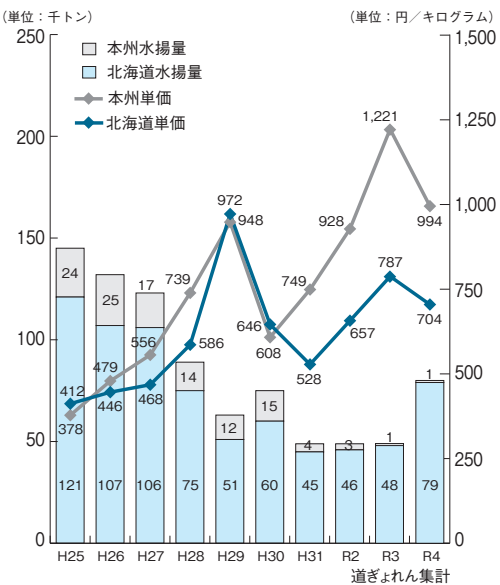
(1) 生鮮対策

- ① 旬期消費の拡大を目的とした、生フィレ・生筋子の販売強化
- ② 水揚げ状況に連動した加工・物流機能強化による原魚の安定処理体制の再構築

(2) 国内対策

- 〈親製品〉**
 - ① 冷凍フィレ、定塩フィレの販路の拡大並びにコロナの情勢に合わせた販促の拡充
 - ② 生協、給食など需要が伸びている業態の販路確立

秋鮭水揚量・単価推移



- (4) その他**
- ① 水産エコラベル(MEL)認証の国内外の普及促進と認知向上
 - ② MEL協議会への海外COO認証システムの構築並びに現地審査実施の要請
 - (3) 輸出対策**
 - ① 原料輸出による海外市場の再構築(中国、台湾、東南アジア他)
 - ② 海外需要をターゲットとした製品輸出の販路拡大(中国、台湾、東南アジア、香港、カナダ他)
 - 〈魚卵製品〉**
 - ① 既存重要販売先との取組強化による囲い込みの継続
 - ② 伸長している業態を狙った販路の開拓とエコラベルを活用した需要の掘り起こし
 - ③ 海外加工による消費地ニーズに応じた製品の生産に加え、エコラベルを活用した需要の掘り起こしと商品開発の継続

(2) 加工

- 漁協・協力会社・関連会社との組織的連携による加工機能強化
- ① 製造環境、消費環境及び水揚げ環境の変化へ対応した付加価値商品の開発強化
- ② 安全・安心対策強化に向けた品質・衛生管理スキルのさらなる向上

(1) 市場

安定流通・魚価維持のための産地市場対策の拡充

- ① コロナ禍で伸長した販路への販売拡充及びポストコロナを見据えた取組強化
- ② 突発的かつ集中水揚げ時に対応しうる広域的な加工・流通体制の拡充
- ③ 水揚げ増加傾向魚種の販売強化

また、海外においてはコロナ禍からの経済回復が早い国が多く、輸出货量は増加しています。このような環境変化に対応した各種流通・宣伝・販促事業を展開していくとともに高品質・安全安心を訴求し、北海道水産品のさらなる販路拡大に繋がります。

水産物の流通はコロナ禍において多大な影響を受けた外食業界は回復の兆しを見せはじめ、巣ごもり需要といった家庭内消費については堅調に推移しています。

道漁青連が視察研修を行いました



ぎょれん東京支店の職員より市場の模型を用い豊洲市場各施設の説明を受ける道漁青連役員一行【左】。研修に参加した道漁青連役員。右から、尾崎勇太会長（北見）、小笠原宏一副会長（留萌）、横田和馬副会長（根室）、挽野洋介監事（松山）、小柳賢太監事（宗谷）、山森昂理事（小樽）、右近鉄也理事（日高）【右】

UMITO Partnersの企画による東京都内視察及び道産水産物を活用した料理の意見交換

視察2日目は、道漁青連役員が体験や出会いを通じて、最新の消費・流通の現場を体感することを目的にUMITO Partnersに企画を依頼した東京都内の視察です。

日中は、東京都内にて持続可能な社会の実現を目指す企業・団体の商品を販売するスーパーや飲食店を訪問し、人や環境に配慮された食料品に対する消費者のニーズを学びました。

夜の懇親会では、仲買業者や小売店等が集まる中、道漁青連小笠原副会長（留萌）のたて、横田副会長（根室）のほたて、山崎理事（釧路）所用により不参加の昆布を、千代田区のレストラン「the Blind Donkey」のシェフが調理した試食会が開催され、参加者との意見交換を通じて、自らが漁獲した水産物をより美味しく食べるための調理方法について学びました。



夕食会場のthe Blind Donkeyにて、懇親会の様子。写真左手前：道漁青連尾崎会長（北見）

平成16年から青年部活動のリーダーである北海道漁協青年部連絡協議会（道漁青連）の役員が、国内外における道産水産物の加工・消流状況を学ぶことを目的にぎょれんの助成を受け、2〜3年ごとに視察研修を行っています。本年2月、新型コロナウイルス感染症の影響で4年ぶりの実施となった視察研修の様子について、同行した指導教育部の鶴巻職員にレポートしてもらいましたのでご紹介します。

日本の台所・豊洲市場を見学

最初の視察先は日本の台所・豊洲市場です。国内最大規模の大きさに圧倒されながら展望ゾーンから場内の様子を見学しました。

我々が向かった朝6時は、各地で水揚げされたマグロが市場内に並んでいました。その後、全国から集まった鮮魚等の見学も行いました。



ぎょれん鹿島食品センターにて、懇談会を行う道漁青連一行



水産関係者に振る舞われた料理の一部（道漁青連役員が素材の水産物を提供）

※UMITO Partnersとは、
該社は2021年6月に代表の村上氏が設立した水産ソーシャルベンチャーです。海の資源と、生業としての漁業の持続性を両立させるため、漁業者の視点に立った事業を行っています。

全漁連役職員との懇談会

視察最終日は全漁連を訪問しました。前半で、全漁連三浦常務理事より水産資源の管理及び海洋環境の変化に関するお話を頂き、その後、懇談に移りました。

道漁青連役員からは、各浜での資源管理に対する意識の差や政府に対しての期待など、様々な意見交換が行われました。



北海道のみならず日本漁業の課題について懇談が行われました

第31回 漁師さんの出前授業が開催されました

視察研修を終えて間もない2月21日（火）、札幌市立美香保小学校で道漁青連とぎょれんが共催して、通算31回目となる「漁師さんの出前授業」が行われ、4年生の生徒約70人が参加しました。

当日は道漁青連から小笠原副会長（留萌）と右近理事（日高）が先生となり、普段どのような漁業を行っているか漁具や漁法の紹介などを交えながら紹介したほか、道漁青連創立60周年を記念して制作した動画「おいしいおさかなと漁師さんのきもち」を使って活動の内容を分かりやすく教えました。

また、後半の授業では小笠原さんの用意したスライド、右近さんのロープワーク実演、質問タイムを通して、漁師としての想いや北海道の漁業や食の魅力、そして漁師さんが行っている海洋環境保全の取組について伝え、生徒たちは時折感嘆の声を出しながら、真剣な眼差しで話に聞き入っていました。



右近さん（左）と小笠原さん（右）の見事なロープワークとお話に子どもたちは興味深々でした



ぎょれん鹿島食品センターにて、工場見学の様子

午後からは、茨城県神栖市にある（株）ぎょれん鹿島食品センターを訪問しました。大谷内社長ほか役職員から、工場の変遷や取扱商品等についての説明を受けるとともに、生協・量販店向けに生産される、いくらのカップ詰めやわたのパック詰め等の加工品の生産現場を見学しました。

ぎょれん東京支店・ぎょれん鹿島食品センターで情報交換と見学

豊洲市場見学の後、場所をぎょれん東京支店に移し懇談を行いました。福田支店長をはじめ東京支店職員から北海道主要魚種の消流状況についての説明を受けた後、各浜で抱える問題などについて、意見交換を行いました。



ぎょれん東京支店での懇談会の様子

編集部からのお知らせ

皆様からのお便り、写真、イラストをお待ちしています！

次の①～③を明記の上、ご応募ください。抽選で5名様に図書カードをプレゼントします。

- ①なみまるおたより箱への投稿（お便り、写真、イラスト等）や、広報なみまるくん4月号への感想・ご意見など（※150字程度まで）
- ②12ページのシークワードの答え
- ③住所・氏名・年齢・電話番号

〈宛先〉4月19日までにお送りください。

（郵便）〒060-0003

札幌市中央区北3条西7丁目1番地
北海道ぎよれん 総務企画部 広報担当

（FAX）011-242-3543

（電子メール）info@gyoren.or.jp

※「なみまるおたより箱」には①からご紹介します。ご応募いただいた方の個人情報は、図書カード進呈や、お便り、写真、イラスト等の掲載（氏名、年齢、市町村名）にのみ使用いたします。写真やイラストは、返却できませんのでご了承ください。

12ページの間違いさがしの答え



春らしくなってきました。市場がにぎわつていいな。
（厚岸町 WA-49さん 49歳）
何か変 秋サケはダメ 噴火湾だけ北海道では変 ザラボヤだけ昨年より多くフンドリケツリ何とかなして…
（八雲町 吉田三郎さん 87歳）
ようやく暖かくなってきました。早く春がくることを待っています。燃料費も高いし、値上げ値上げ…。
（小樽市 宮古登美子さん）

みなさんのお便りでつくるページです。

なみまるおたより箱



だいがコロナも少なくなってきた。来てもマスクも自由にして良いとの事。でもこれから北海道は花粉症…つらいです。
（泣）
（島牧村 高島里子さん 72歳）
今春学校を卒業され、果てし無き海の青さに憧れ大海原からの贈物を夢に見て、漁業者として力強く第一歩を踏出した方もおられる事と思います。今世界中が食糧危機に直面しており、日本国民の食糧供給基地として北海道漁業に対する期待大なるものがあると思われまふ。協同組合組織に心と力を結集し、生産活動に励まれ良い結果を得られる様ご祈念申し上げます。応援しているよ、頑張れ新米漁師、負けるな、くみあい。ぎよれん。
（厚岸町 魚大好親父さん 83歳）

今年も前浜で群来しました。
（小樽市 宮古知行さん）
春到来…卒業シーズンが終わり。次は新生活 進学到来。子供が離れていくのもあつとゆうま…これから色んな生活がまわります！健康に気をつけて頑張っていくしかないですね！！
（八雲町 母さん 42歳）
多かった雪もやっと終わり少しづつあつたかくなってきましたね。
（函館市 ふくふくさん 41歳）
なみまるくん3月号を拝見し、まんがで漁業のことを伝える「漁業協同組合のひみつ」が発行され、とても良いと思いました。子どもからお年寄りまで理解しやすい、漁業への関心を引き出せると思います。
（別海町 蛸山友子さん 66歳）

編集後記

先日、長男（高校）と長女（小学校）の卒業式に参列しました。新型コロナウイルスの影響はどちらにも変わらず、保護者の出席は2名までに限定され、座席もソーシャルディスタンスを考慮した配席。ほとんどの生徒はマスク着用で、この3年間はこれが日常になってしまいましたが、その中でも一生懸命学校生活を送っていたのだと思うと、感慨深いものがありました。
5月には5類感染症への移行が予定されています。これを機にいろいろなことが、プラスに動き出してもらいたいものです。
（古村）

ライフジャケット着た？ この確認が お母ちゃんの大仕事

公益社団法人 北海道海難防止・水難救済センター

頭すっきり!! ブレイクタイム Break Time

シークワードクイズ 4月のテーマ 「雑草・野草」

4月は「雑草・野草」がテーマです。リストには春の七草もありますね。図の中で、たて、よこ、ななめの一直線に下のリストのキーワードが読めるようになっています。

どこにあてはまるか探してください。すべて探し終わったら、どれにも使用しなかった文字をうまく並べかえてください。

リスト

- | | |
|---|--------------------------------|
| ☐ オオバコ | ☐ ナズナ |
| ☐ オニユリ | ☐ ネジバナ |
| ☐ ガマ | ☐ ハナニラ |
| ☐ コスミレ | ☐ ハハコグサ |
| ☐ コハコベ | ☐ ミチヤナギ |
| ☐ コバンソウ | ☐ メドハギ |
| ☐ ジュウニヒトエ
（ジュウニヒトエ） | |

〈ヒント〉花言葉は「独立」「素直になれない恋」、いずれもトゲに由来しているそうです。

解き方

リストの言葉をマス目の中からタテ、ヨコ、ナナメの一直線に探していきます。文字は逆方向から読んでも、他の言葉と重複して読んでもOK。すべて見つけた後、使われなかった文字をうまく並べかえると答え（魚の名前）になります。

例題

ア	コ	ン	ブ
キ	ア	サ	リ
ア	バ	ン	サ
ジ	コ	マ	イ

- リスト
- ☐ アキアジ
 - ☐ コマイ
 - ☐ プリ
 - ☐ サンマ
 - ☐ コンブ
 - ☐ アサリ

〈解答〉サバ

間違いさがし

間違いは5つです。

※右と左の絵には、5カ所の異なるところがあります。さあ、見つけてください。（印刷のズレや汚れは関係ありません。）



※答えは13ページにあります。

浜のおかあさん レシピ

ホクホクのじゃがいもに鮭は相性抜群！



揚げないプチコロッケ

今回は「揚げないプチコロッケ」をご紹介します。
一口サイズでいくつでも食べられますね。



材料(4人分)

じゃがいも…………… 4個
塩鮭…………… 一切れ
(鮭フレーク可)
バター…………… 40g
パン粉…………… 50g
マヨネーズ…………… 大さじ2

A

塩…………… 少々
こしょう…………… 少々
牛乳…………… 小さじ4
スライスチーズ
…………… 2枚(ちぎる)

作り方

- ① じゃがいもを茹でてつぶします。
- ② 鮭を焼いてほぐします。
- ③ フライパンにバター、パン粉を入れきつね色になるまで混ぜながら炒めます(バターが溶けるまで強火で、溶けてきたら中火で、焦がさないように火を弱めます)。
- ④ つぶしたじゃがいもに鮭、Aを入れて混ぜます(味をみて塩を加減します)。
- ⑤ 20等分にして丸めて外側にマヨネーズを塗り、炒めたパン粉をまぶしたら出来上がり。

ウトロ漁協

畠山 美佐さん

